

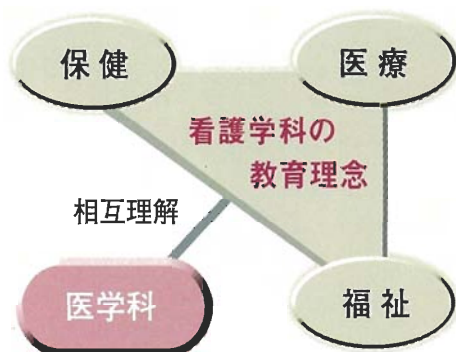
## III

## 看護学科の動き

## 看護学科

## 看護学科の教育理念と目標

## 看護学科の教育理念



## 教育目標

- 1 看護の対象となる人間を理解し、その人の信条、人格、生活、権利を尊重し、行動できる人間性を養う。
- 2 看護の実践者としての臨床エキスパートとして、実在または潜在する健康問題を判断し、援助するための基本的知識・技術・態度を養う。
- 3 保健・医療・福祉における看護の役割を理解し、看護者としての責任を果たし得る能力を養う。
- 4 自ら積極的に研究する態度と自己啓発できる能力を身につけ、研究者、教育者として成長し、看護学を発展させる能力を養う。
- 5 幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育み、良好な人間関係を形成することのできる能力を養う。

## 看護学科看護教育活動の現状

## ● 学生の受け入れと定員充足状況

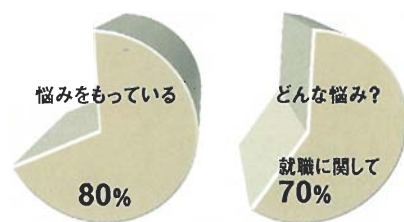
自律性・主体性・研究心・探求心をもった専門職業人を育成すべく、学生の選抜を行っている。志願倍率は2~3倍であり、志願者の大半は滋賀県及び京都府に集中している。

## ● 学生への配慮

## [学生へのガイダンスと学年担任制]

新人生へのガイダンスは本学学生としての希望がもてるようにと考え、2日間にわたって行なっている。また、学年担任を決めて学生の問題解決にあたっているが、このシステムの評価及び効果的な活用についても検討しているところである。

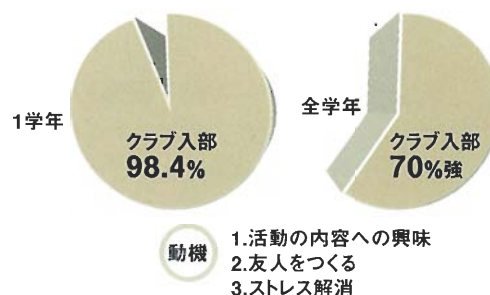
## [学生のもつ問題とその解決への対処]



どう対処しているか: 1位 友人や先輩に相談する

## [クラブ活動]

クラブ活動は学生生活にとっては種々の学びの場となるよう教官も支援・協力が必要である。学業とクラブ活動をとものにすすめていけるために学生の考えを取り入れながら支援を考えていきたい。



## ● 学生の健康管理

学生の健康管理は、大学のシステムとして保健管理センターにて定期健康診査、精神健康相談等が行われている。また、看護学科においては、実習にあたり必要なHBs抗原・抗体検査、ツベルクリン反応検査等も実施し、結果に基づいて必要な健康指導を行っている。

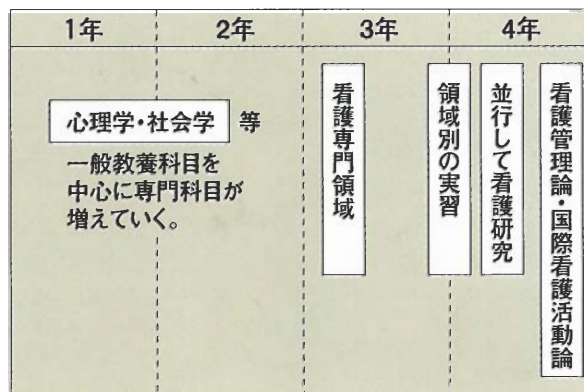
## カリキュラム編成と教育指導

## ● 看護学科カリキュラムの編成

2回の卒業生を送り出し、カリキュラムの検討

を主要な看護学科の課題とし、正式にカリキュラム検討委員会が発足し活動を開始している。

①看護学科カリキュラムの科目構成



②看護学科カリキュラムがねらうもの

カリキュラムの基本は次の3点である

1. 人間理解

人間の体、心、行動、環境を理解し、看護の対象である「人間」を、身体面からだけでなく、心理的・文化的・環境的側面から包括的に理解することを目指している。

2. 健康・疾病・徴候の理解

「傷害や人生のタイムリミットとの共存を受け入れ、自分が在りたいように生きられる状態を」という視点から疾病をみることにより「対象の持つ可能性」が確認でき、その可能性を生活に活かした援助が可能になるであろう。健康や疾病をどうとらえるか、疾病をもつ対象にどう関わるかを考えたとき、徴候あるいは症状の理解は欠かせない。

3. 看護の基本（理論・技術）の理解

対象により看護を変化させ、個別の対応が求められる。しかし、対象の特殊性にかかわらず、いかなる対象に対しても普遍的に必要な理論や技術がある。それを習得することも欠かせない。また、理論と技術は別々のものではなく、理論を活かした看護実践として理論・技術を身につけるのが実習である。本学カリキュラムでは、病棟実習に加え、特別養護老人ホームや重度心身障害児施設、一般企業の健康管理部門等での実習を取り入れている。

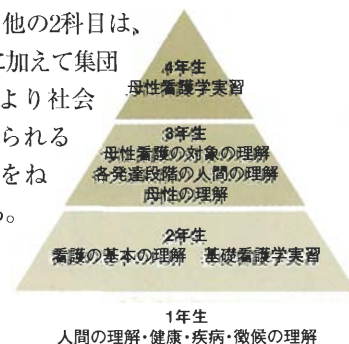
〔3～4学年のカリキュラム構成とその理念〕

● 領域別臨床実習の位置づけ

3学年～4学年にかけては、保健から健康障害までの一貫した内容を発達段階ごとに教授する。成人・老人・小児・精神・地域といった領域の特殊性を理解し、対象の個性性を考えたケアの実践ができることをねらいとしている。講義・演習に引き続き、領域ごとの実習がはじまる。実習では理論と実践の統合をはかることが目的となる。

● 看護研究・家族看護学・看護管理理論  
国際看護活動論の位置づけ

「看護研究」は、主体的学習と研究的思考能力の育成をねらいとし、学生が自らの課題を追求することを通して、研究方法を実践的に学べるように関わっている。また、「家族看護論」他の2科目は、対個人の看護に加えて集団をみることにより社会を広くとらえられる看護職の育成をねらいとしている。



臨床看護活動論Ⅲにおける教育の完成(例)

## ③看護学科カリキュラム検討の視点と検討のプロセス

- |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 各科目における授業内容が教育理念・教育目標達成をねらったものになっているか否かの検討及び授業方法等、教育効果の評価・検討。</p> <p>(2) 各科目との関連において、科目の開講時期や連関は適切かの検討。</p> <p>(3) 科目間の重複等を含め、教授内容の検討。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教官間の連携とシラバスの活用</li> <li>● 主体的な学習姿勢の育成</li> <li>● 講義方法の工夫</li> <li>● 統合カリキュラムのコアの再検討</li> </ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 臨地実習の状況

領域別臨地実習は看護学の集大成として重要である。臨地実習に関しては、実習のその時、その場での教育的関わりはもちろん、その運営が実習効果にあたえる影響は大きい。

本年9月に、臨床実習調整委員会が設置され、実習施設である附属病院の看護部との連携のもとに、学習会を設けている（左表）。

臨床実習指導者会における学習会

回数	月日	内容
第1回	9月9日	13:30～14:00 看護学科実習依頼 14:00～15:30 「臨床実習指導者への要望 —学生が指導者に対して何を望んでいるか—」(看護学科教官)
第2回	10月14日	14:00～15:30 「教員になって指導者であった頃を振り返ってきつたこと」 (看護学科教官)
第3回	11月11日	14:00～15:30 「カリキュラム及び授業内容」(看護学科主任)
第4回	12月9日	14:00～15:30 実習室と学内演習の見学・説明—看護学科棟見学
第5回	2月10日	14:00～15:30 「実習での学生との関わりを考える—事例を通して—」



看護研究（卒業論文）の実施状況

● 看護研究の学習目的

看護学科における学習を基盤として、学生各自が看護学上の疑問・関心に基づき研究課題を見だし、その問題に関連の深い分野の教官のもとに研究を行う。その過程を通して、研究方法について学び、看護学の発展に寄与する素養を身につける。

● 看護研究の指導プロセス

教官が3～5名の学生を受け持つ。主体的な学習活動を期待し、3年次の後期に入り、すぐにオリエンテーションを1.5日かけて行っている。その後、学生は第3希望までの課題を提出し、教官がそれを調整し、担当教官を決定するという手順である。

研究結果は、発表し合い、評価し合い、最終的には抄録集を作成し、学生に配布している。

卒業生の進路状況

国家試験の合格率は下図のようである。

看護婦国家試験合格率



保健婦国家試験合格率



滋賀県内就職者は、1期生：18名(31.6%)、2期生：24名(39.4%)である。滋賀県以外の近畿地方での就職者は、1期生：18名(35.3%)、2期生：28名(45.9%)であった。進学者は、大学院、助産婦学校が主である。看護職の就職状況も年々厳しさを増す中で、現在4学年担任の教官が就職相談にのっているが、いずれ大学に看護学科学生の就職に関する専門に対応する部署が必要になってくることも予測できる。

就職・進学状況

	進学者	就職者		進学・就職共になし
1期生	10 (15.6%)	51 (79.6%)	保健婦 (25.0%) 看護婦 (75.0%)	3 (4.2%)
2期生	9 (12.5%)	61 (84.7%)	保健婦 (20.8%) 看護婦 (79.2%)	2 (4.7%)

大学院看護学専攻修士課程のカリキュラムと学生の状況

修士課程は、平成11年度に教育・研究者の育成とともに、高度化医療や高齢者社会の問題に対処できる専門看護師(CNS)の育成を目的として開設された。看護学科、医学科、附属病院や関連施設の資源を活用し、看護実践の専門性を追求、臨床で役立つ看護学修士の育成である。

教官の研究活動状況

1994年～1998年の5年間の研究業績の総数及び主要研究を自己申告方法をもって調査した。

各講座における職位別研究活動状況 注:数値は、総数/各講座人数を表している

講座	教授		助教授・講師		助手	
	著書・論文	学会発表	著書・論文	学会発表	著書・論文	学会発表
基礎看護学講座	15/3	34/3	25/2	27/2	2/2	0/2
臨床看護学講座	45/4	21/4	74/4	45/4	15/5	30/5
地域生活看護学講座	37/2	53/2	23/2	33/2	1/2	0/2

各講座別研究助成費による研究参加状況 注:数値は、総数/各講座人数を表している

講座	基礎看護学講座		臨床看護学講座		地域生活看護学講座	
	科研	その他	科研	その他	科研	その他
研究代表者	1/7	4/7	3/14	5/14	3/6	2/6
研究分担者	1/7	5/7	4/14	5/14	0/6	3/6
研究協力者	0/7	1/7	2/14	1/14	1/6	0/6

看護学科教員組織

看護学科においては、本年度、組織の明確化に関する努力がなされた。看護学科責任者を「看護学科主任」とし、遅まきながら、その役割・責任も「滋賀医科大学医学部看護学科主任に関する規定」として明確にされた。看護学科教授懇談会は「看護学科教授会議」となり、看護学科内の運営を図るための会議として位置づけられた。また、カリキュラム検討委員会の設置、看護学科実習実施委員会も実施された。